

# Weekly コラム

令和3年5月18日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4号館 4階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会) Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

## 活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

## 300億円の生みの親

空前の鬼退治ブームとなっている日本ですが、現段階で『鬼滅の刃』の経済効果は少なくとも2700億円ほどにのぼるとの試算だそうです。週刊少年ジャンプでの連載は2020年5月18日に終了。その後10月に公開された映画は24日間で興行収入200億円を突破、現在は興行収入1位(308億円)『千と千尋の神隠し』まであと20億円と、映画史に残る快進撃はまだ続きそうです。

さて、これだけ映画がヒットしたならば生みの親たる原作者の収入もさぞや…と思われがちですが、どんなに映画がヒットしようとも、原則、原作者に支払われるのは「原作使用料」のみであることは、意外と知られていません。過去、興行収入60億円にのぼる大ヒットとなった映画『テルマエ・ロマエ』や『海猿』の原作者がその金額を暴露し、話題となったこともあります。

原作使用料は上限が1000万円とされ、まるまる作家へと支払われるわけではなく、出版社が20～40%、原作者が60～80%程度の配分となっていることが多いようです。また映画にかかわるPR活動なども無給であることがほとんどのようです。もちろん、契約時に「成功報酬」等の契約も一緒に交わせた場合は、その限りではありませんが、製作者側からすれば、原資料として支払う金額は少ないに越したことはないため、原作使用料は低額に抑えられているというのが一般的です。

原作者の収入の多くはやはり「原作」の売り上げによるものとなります。前述の『鬼滅の刃』

はアニメがヒットしたことで、全国の書店から一時コミックスが消えるという社会現象も巻き起こしました。同じジャンプ漫画で実写映画化された『るろうに剣心』や『銀魂』も映画のヒット後、コミックスの売り上げを伸ばしています。ドラマ『半沢直樹』の原作小説は、ドラマが始まった2013年7月7日からの約50日間だけで計150万部を増刷。『鬼滅』や『半沢』は特例ですが、どんなに原作使用料は安くても、仮に映画が失敗しても、原作者は映画化での金銭面リスクは負いません。映画化をきっかけに少しでも原作が売れば、それが原作者にとっての一番のインセンティブとなります。

日本の映画市場は、1978年ごろから約40年間、約2000億円と横ばい状態が続いています。近年では制作側にとって、ネームバリューのある原作を使用することは、少なくとも原作ファンという一定の観客動員を見込めるという安心材料となりました。一方で、原作者の待遇の低さが問題となることがまだまだ多いという事実。WIN-WINの関係だからこそ、対等な関係を築き、国内だけではなく世界市場を見据えた、より面白い作品を生み出してほしいものですね。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、

skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。